

K-7A

68

247

Student's Counselor.

森本介石演說

學士之錦囊

東京江藤書店

"Truth and Virtue."

Handwritten marks at the bottom of the page.

特50 No 11427



はしかきの代り



一此小冊子は山形英學校教師森本介石君が同校生徒の爲めに致

しつゝ筆記せしものあるが當時出羽新聞の請に

依りては一地方に止まれば之を印刷に附して一小冊子とあし廣く

世人に頒ちかは其益尠からざるべしとて頻りに上梓の事を勧む

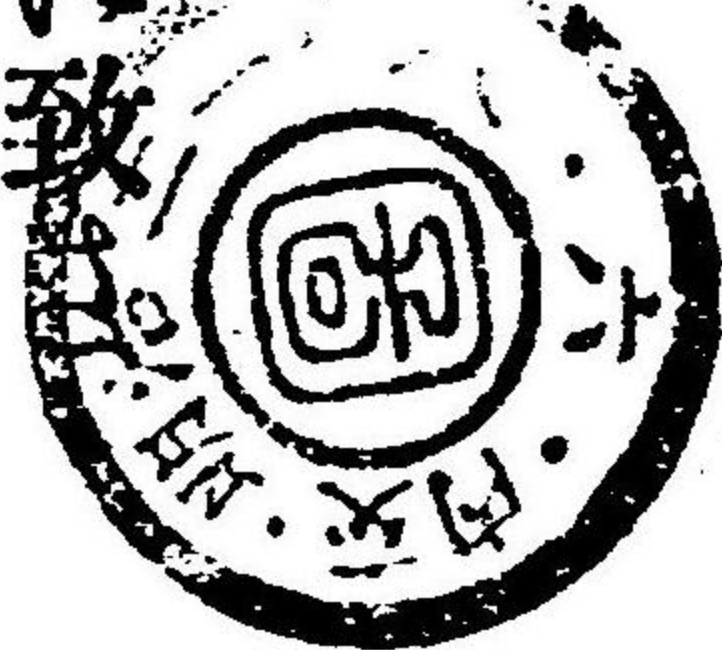
るものあるゆへ黙止難くて森本君に詢りしに異議あかりしもの

外ら遂に印刷せるとはありぬ

一森本君が滔々の雄辨にて致されし講話を僕が遅々の鈍筆を以て

ものせしとあれば宛ら寫真を取て木版に彫りたる如く其抑揚頓

挫おど人の情を動かし感を起すべき大切なる箇所を書誌せしと



も多かるべし是れ偏に森本君に對して謝せざるを得ざる所なり
一此小冊子は森本君多年の經驗と細密なる注意とを以て世の學生
の急所を刺したる砭針なれば啻に山形英學校生徒のみならず凡
そ學海に棹さす人々の爲めには航海に最と重寶ある羅針盤あり
左れば世の學者は必ず一冊を座右に置き方向に迷ふ時は勿論折
々は錦囊を開き見て學海を駛せよば假令孔明が錦囊に如ずとも
難破の患あきに庶幾からんか

明治廿一年二月廿日と申す日に山形寓居に於て筆記者しるす

學生の錦囊

森本介石 講話
倉長恕 筆記

○洋學の目的

今朝私の講話の題は洋學の目的と云ふこととす近頃私の最も奇怪に思ふことは何故此
様に急に洋學が流行り出したかと云ふ事とす何故五六年前には餘り流行せぬものが急
に三層倍五層倍の價値を現わして到る處其勢力を逞ふ様になりましたか
私五六年以前に東京の或る漢學先生の門を過ぎりしことありしに呷唔の聲四隣に響く
と申す程の勢にて數百の書生塾中に充ち満て居る様子でしたが今試に其同じ門に行き
て御覽なさい寂々寥々二三童子の讀書の聲を聞くのみでせう是れは如何なる驛ですか
彼の數百の漢學書生は何處に参りましたか即ち御承知の通り洋學の風潮に乗て其方向
を轉しました其處で慶應義塾は忽ち千人近くの書生となり英學の壞れ塾は忽ち時めき
て修繕をなし教員を増加し堂々たる門戸を構へて許多の生徒を出入せしむるものとな

洋學の目的

りて居升る

諸彼等及び其他の洋學生は何故に洋學の必要を感じましたか如何なる目的を以て洋學を勉強致す様になりましたか諸君は皆夫々に其説を持って居られませう私は實に其説を一々聞かんことを欲します何となれば今日の日本は無定見の時代です流行の時代です變化の時代です失望の時代です僥倖の時代です此流動昧の時代に處するには遠き見識と深き考察と慥なる定見がなければなりません若し夫れ之れなき時に於てはいつも喘々として世俗を追ふの俗物とある乎將た邯鄲に歩を學んで遂に匍匐して歸らなければならぬ様ある馬鹿ものとなる乎但し其流中の泥となりて空しく社會の水底に沈滞する無用の物となるより外はありますまい何の目的を以て數年以前の漢學書生は其漢學を勉強して居りましたか何の目的を以て今日洋學に移りましたか今日洋學に移らなければならぬ必要を感じる以上は前へに漢學をなしたる目的は全く誤りたるものでありませう即ち見識なく定見なきが爲めに青年の貴き時間と父兄の貴き學資とを空しく費したるものでありませう實に氣の毒の至りです去りながら世人が今日洋學に轉じたる

洋學者の注意

洋學の主眼は如何

上に於ても諸君が今日洋學を學ぶ上に於ても茲に確固たる見識なければ又無駄骨折をかし無益なるとに時と金を費し又々狼狽して其の歩を轉じ遂には臍を嚙て及ばざるの年々出合ひませう諸君若し今日の流行病に連れて(先つやつと置くがよい)誰もやるから我もやる位の所にて修むるならば這は論ずる迄もなし通辨が出来れば面白からう洋學が出来れば幅がきく位の考へにて洋學を初むるものは未だ洋學の眞の必要を知らざるものです高等中學に入り大學に入るには是非とも洋學を修めざるべからずと云ふ位なる量見です未だ洋學の眞價を知るものとは云へません洋學は高等中學又は大學の專有物ではない是等の學校を借らなければ其眞價を得ないと云ふ様なるものではありません若し夫れ斯様な淺薄なる考を以て洋學を初むるものは中途にして廢するか失望して止めるか良し萬一少しく進歩したる所が洋學を活用する人物となることは難いことと云ひませう

左れば洋學を修むる目的は如何諸君之を心に記し給へ洋學を修むる眞正の目的は人の交際にわらず面白半分よわらず虚榮を貪ほる爲めにわらず大學の卒業證書を得る爲に

わらずして全く洋學を以て智識を得るの道となすの上にあることを忘れてはなりません。夫れ洋學は智識の庫なり今日の智識世界は洋學でなければ跋涉することが出来ません。洋學の眞價は茲に存するものです。諸君目を擧げて今日諸君が住居する處の國を看玉へ電線の國中を貫くが如く鐵道の山川に動くが如く歐米智識の産み出したる開化は凡て社會の血脈となり運動力となり將に人民の腦髓とならんとしては居りませんか、諸君等に最大關係ある政治の上より工藝百般の上に至る迄一として歐米の智識に依らざるものはありません。此故に今の社會に在て歐米の智識なきものは識者とは云はれませぬ世の勢力者とならんと思ふ者は此智識がなくてはなりません、開導者とならんと欲する時には此智識にたよらなければなりません、而して此智識の源たり庫たり師たるものは其國の書物の上に在るが故に之を取り之を使ひ之を活かし之を働らかせんと欲するものは是非とも洋學をささなければなりません、是れ諸君が今日洋學を學ばなければならぬ必要を感じる所以にして其目的は此點より外にありません、實にも諸君が洋學を修むる其時には諸君の智識の道路は四通八達書窓、机に依て六合の現象世

界の事物も手に取る如く知るとを得、天牀不可思議物を知らんと思ひ玉は、千億萬里忽ち縮て眼前にあり、萬物哲理の玄奧を叩かんと思ひ玉は、數千載の學者忽ち群集し來りて其究めたる深き思想を語りませう、政治の事を知らんと思は、政治の書物茲に在り、工商の事を知らんと思は、工商の書物茲に在り、驚歎至極なる物理の發明を知らんと思ふ乎動物の事を知らんと思ふ乎農業の事を知らんと思ふ乎航海の事を知らんと思ふ乎天下萬國の地理、文野の風俗を知らんと思ふ乎西洋道德の基礎、元氣の根源なる宗教を知らんと思ふ乎、否彼の國遊藝の事より割烹の事に至る迄君之を知らんと思は、悉く載て書籍に在り君若し書籍室を造るとを得ば歐米文化の智識日本文明の手本悉く君の側に侍べるなり又何と愉快でありませんか、しかのみならず君は英雄豪傑を慕ふ乎歐米には拔山倒海の英傑多し、君眞正の自由を好む乎歐米には君の友君の先輩君の師たるもの鮮からず、君は眞理の爲めに自若として懼れざる至誠の人物たらんことを望む乎「我茲に立てり我是より外にさす能はざるあり」と敵中に起て斷言したる「ルーテル」の種類幾千人あるや知るべからず、君人生の喜愛に感する乎即ち詩歌を愛

智 識 完

する乎古今獨歩の名歌實に多からずとせず君若し彼の傳を集め其志氣を視其詩を讀み其奧妙を察する時には慷慨天を仰て起たしむるものもあり悲惨、腸を斷て泣かしむるものもあり國の爲め人の爲め良心の爲めには飢餓も裸躰も危険も刀劍も擧て畏るゝに足らずと云ふ眞正の勇氣を起さしむるものあるなり、君若し茲に至り玉ふ時は國は君の爲めに賀し人は君の爲めに喜び君は自から又なす所ありて失望せんとするも能はず無益なる物とならんとするもなる能はず世に用ひられざらんとするも殆んど能はざるに至りませう、其學問は「既に生きて且能あり」又學位を當てにしますまい世間の流行如何を顧りみましますまい、父兄の金錢と青年貴重の時間を損したる憾みをもありますまい、諸君よ諸君若し洋學の目的を此點に向けて進むならば我輩は慥に信す諸君は世の愚者のなす如く第三(リードル)位にて中廢することなく必ずや此目的を達する迄に嶮難を攀ぢ岩石を潜り決して挫折することはありますまい、願くは諸君目的を茲に置いて進み決して無定見流行物の輩と共に流れ來り又流れ去ること勿れ

○智識ありて徳義なきものは毒物たるのみ

不徳の者無味の鹽のみの

此前回の講話に於ては事物を知るものにあらざれば今日社會實際の役に立たぬ、無學のものは即ち無用なりとこのことを述べ而して今日其事物を知るには洋學を主とせざるべからず智識を得るを目的として洋學を學ぶと成るが故に只通辨位の所にて満足すべからず又第三(リードル)位で止むべからず必ず智識を備ふの人物と成るまで、少くとも智識を得るの道の開けたる人物となるまでは一心不亂に勉強せざるべからざる次第を論じましたが今朝は尙ほ一步を進めて其智識を善く用ひ得る人物即ち智識を加ふるに善良誠實至愛至忠なる性質を備ふる人物とならずば必ず無用無益無功却て社會の害物世の毒物と成るか但しは世には疎まれ人には捨てられ折角智識を懐きながら違々竟に爲す所なく空しく蟲喰識者、蛇蝎的の智者となり社會の塵芥を食ふて生涯を終らなければならぬ眞に淺間敷人間となるに至らんと云ふことを是より述べんと存じます先づ近く譬喩を此學校に取りて申すならば諸君の上を見ても分りませう今假りに諸君をして通辨も出來書物も讀め何れの級にあるとも何時も第一等の地位にあるものとするも諸諸君が其學問の出來るを鼻に掛け驕慢無禮なる振舞をなし歩むときは肩で風を

不徳者僥倖の結果

切つて歩み語る時には横柄なる言葉を用ひ妄りに差圖ケ間敷事を其仲間を生徒になす時は生徒は其人を愛しませうか敬しませうか其言に従ひませうか決して否らず斯る者に従ふものは卑屈至極奴隸根性の人間より外にありませうか否却て之を賤しめ之を斥け心あるものは之を笑ひ之を疎んし之を別物として交際しませうか左れば其人の智識は其人を驕慢に導き其驕慢は人間社會より放逐せらるゝの結果を生じ折角螢雪の功を積んで積み重ねたる學問も終に倒れて己れを亡し人を躓かしむる害物となるより外はありませうか其人、學校に於て既に如斯なれば社會に出ても亦然り世の望を負ひ人の信用を繋ぎ衆と共に事をなすと決して能はざるのみか味なき盪の如く道路に捨られて人の土足に掛けらるゝに至りませう或は人の眼を偷んで萬一僥倖の地位に立つことに屬せしめて事をなすとありとせんか或は人の眼を偷んで萬一僥倖の地位に立つことありとせんか禍實に是より甚きものはなし其人既に謙遜の心なし人を愛する愛心なし人の爲めに謀る精神なし争て社會の益、同胞の爲となることあらんや戸長となれば徒に威權を振ひて無智の人民を困らし議員となれば徒に驕慢を構へて議會の妨をなし

ミラポールの結果

官吏となるべきに徒らに傍若無人の處置をなすとを好み己れの暴權を振ふとのみ強めませう若し夫れ斯かる人物の其位地が昇れば昇る程其毒氣益々深く其害流溢々激しくなるより外の結果はありませうか
諸君は之を記憶せねばならぬ、人は智識の人を貴び智者を敬ふと同時に又甚だしく惡を惡み無禮を嫌ふの天性を保つものであると、此故に此天性に逆ふて政を施す政府は必ず顛廢し、事を起すものは必ず敗れ、生を貪るものは自から墮りたる陷阱に墮ち自から張りたる網に罹るに相違御座りませぬ又此天性に逆ふときは能辨も力なく才智も力なく膽骨も力なく是迄博したる名聲も忽ち落ちて力なきに至るものです彼の佛蘭西改革の時に當て「ミラポール」と云ふ非常なる人間が現れ出て非常なる勢力を得、佛國をして上を下へと一時に轉倒せしむる程に至りましたれども諸君は此人のなしたる一の失敗を知らざるべからず彼の改革黨會議の時に「ミラポール」が雷の如き聲を發し獅の如き勇を揮ひ大蛇の如き意氣込を以て滿堂を一時に呑んとしたれども其甲斐なく疲せ衰へたる身軀を持ち細き震へる聲を發して演説したる「ロベスピエール」の爲めに全く敗北

其智徳を以て地方人の爲に盡すべし

一一二

日本開化の装化

其親其兄は感じませう乎實は今、日本の有様は之に類しては居りませんか御覽なさい
東京又は其他の都府に於ては如何にも嚴重に命令を下して裸躰を禁じ放尿を制し之れ
にて外國人に見られても辱ぢなし立派なる交際が出来ると思ふも如何にせん外國人に
は足なきにわらず一たび其歩を地方に轉ずるときには化けたる日本の眞躰は忽ち現れ
來りて其見悪いと云はん方なく曾て都府にて驚きたる日本の進歩は一目二度喫驚の反
動を起して日本の進歩信するに足らず化裝開化のみ外面開化のみ其眞を振り其裏を窺
へば依然たる無智蒙昧の民を以て成立する國たるのみと疑念の雲に掩はれて其信用を
薄くするに至ることは必然でせう鹿鳴館の盛會も又其人の疑を解くことが出來ますまい
海陸軍の訓練も爲に大に其威を殺がるゝことになりませう表向きには賞褒れども内心
にては舌を出して笑はるゝ様かとにもなりませう何んと残念なる次第ではありません
か是と云ふも智徳の教育が地方に力なきより起る結果でございます東京は日本全國に
對して較ぶれば小部分のみ中央集權に逆上たる一小部分を以て日本を代表するとは出
來ますまい

地方人民の有様

尙ほ又眼を轉じて二十三年を望みますれば此地方人民も亦堂々たる大政の權に與から
んとして居るものです實に大なる身代を引受けて商賣をなさなければならぬ十年前へ
になつて來て居るのです然れども彼等の幾名が大政の權は如何なるもの乎人權とは如
何なるもの乎國權とは如何なるもの乎是より競争して商賣せんとする敵手は如何ある
もの乎と云ふ問題に答へ得ませうか固より之れあらん然れども寥々たる晨星の如く逆
も地方の周圍前途を照すこと能はず行歩甚た覺束かく思ひます彼の今日縣會議員中す
ら憚りながら自由自在に歐米智識の庫に出入し得る人は甚だ多しとは云ひ難いてはあ
りませんか况てや其他の人に於ては更に彼の前に申たる事の如きを考へんともせず良
し其中に是等を學び知らんと欲するものあるとも多くは其方法を得ず衣食に奔走し糊
口も汲々たるの故を以て或は時なく金なく道なきより折角の志あるものも空しく無學
無智遺憾の日を送りて居るではありませんか

加之内地雜居の日も近きに在ませう實際に當て彼の外國人と智徳を闘はす優勝劣敗の
戰場に臨まなければならぬ日は目前に迫り居り三府五港の開國貿易は既に濟たれども

其智徳を以て地方人民の爲に盡すべし

一一三

用信不の邦我るす對に外海

眞の日本の開國貿易は是よりす未だ地方全國は鎖港の有様です左れば地方人民は今日非常なる覺悟なければなりません彼の三府五港に於て貿易上既に開きたる内外人の戰爭を御覽なさい彼の三府五港に居る海外人の陣營を御覽なさい智恵と云ひ資金と云ひ熟練と云ひ其家屋の高壯と云ひ其体格の強大と云ひ迎も本邦人の叶ふべくもならず且又彼等は一概に道徳の人と唱ふること能はされども左れば迎本邦人が其の徳義上の戰爭に於て勝を取りしかと考ふるに亦決して然らず茶と云ひ生絲と云ひ屢々彼等に信用を失ふ如き舉動をなして自からを傷つけ約を守る儘ならず言を喰むと往々ありて彼等の輕蔑を招くこと鮮なからず國家の信用にも關することを惹起すことは是迄屢々わつたではありませんか左れば地方の人民は今より武器を整へ戰客を講じ劣敗せざる用意をなすこと誠に以て必要なり是よりは農事と云ひ商業と云ひ封建時代よりの先祖代々の株を守るのみにては到底適種生存の中に入るとは叶はず必ずや今日に處し今日に動き今日の變轉世界に従ふて今日の策を考ふなければなりません即ち商法學をも知らざるべからず農學をも知らざるべからず天下の形勢にも通ぜざるべからず敵手の事情に

育教方地の的示開

も明かならざるべからず若し夫れ是迄傳來の心得と事物を以て戰を挑むは猶ほ槍長刀を振り舞はしてクルツ砲の精兵に向ふが如し其勝算の期志難きとは言はずとも明かてせう

夫れ是等の事を能く考ふれば諸君の胸中果して如何なる感情を起しませうか夫れ地方人民は諸君の友なり同胞なり故郷の人なり内國を思ひ海外を思ひ加ふるに彼等の惘然なる狀勢を考ふれば諸君の義務責任は層々諸君の上に重りて甚だ重きを覺へしめ諸君の誠情は油然として斯民の爲めに盡す心を燃しませう諸君よ我輩は諸君が此地方より志を起し衆人に先だち此校に來り大に爲す所あらんとする精神を見て國の爲め地方の爲め諸君の爲めに感泣の情に堪へませぬ然れども諸君よ諸君の學は諸君の不徳を帯ぶれば却て毒物となることを忘るへからず又諸君の智徳は諸君自らのみの上に限るべきものにあらざるとを記憶し地方人民の爲めに注ぎ竭さなければならぬことを忘るべからず左れば我等が諸君に望む所は自今諸君の學業進歩して此校の本科三年生若しくは四年生に至るとおらは(勿論卒業して後も)則ち三人

五人組を成し此休暇には彼の村に行き彼の祭日又は此の村に行き或は時々、期を定め此町彼の村に行き地方人民に開示的の演説講話をせし諸君の得たる所を以て彼等同胞の上に分賦へ以て時なく金なく道なきものをして單だ耳朶一つを運び來れば則ち之を得之を取り之を働かすを得る人物とあらしむる様盡力せられんことの一事なり是れ此私立英學校が諸君と共に此地方人民に報いんと欲する所の宿志です

○真理を取り真理を踏て進むべし

扱て先きの兩回の演説に於て智徳の事は了りましたが今朝は一步觀察を轉じて其智徳の立つべき基礎則ち人物の正に動くべき動力の本源に付て少しく述べんと存じます諸君の此間も聞かれたる如く我校長は諸君に告ぐるに「此校の生徒たるものは必ず真理と云ふものを取り真理を踏て行かざるべからず真理を取て貫かざるべからず真理と共に斃れざるべからず」云々と述べられましたが如何にも左様であらねばなりませんい左りながら此所謂真理を取ると申す前に當りて諸君等が勉めて注意せねばならぬとがある、即ち諸君は先づ其智と徳との能力を働らかして其如何なるものが果して真理

興論に依て聖人を殺す

にして其如何なるものが果して無真理なる乎を區別判断せなければなりませんとて諸君等は如何にして或るものが虚偽なることを知りませうか何を標準として之を判断致ませうか是れ最も大切なる所です
それ或人は此事を真理なりと主張するにも拘はらず或ものは全く之れに反し却つて其反對を真理なりと説論するとあるなり斯かる時には諸君は何を標準として其眞偽を定めませうか又諸君は屢々興論しと云ふ聲を聞きませう然れども興論果して真理でせう乎興論果して眞偽の判断者となすべきでせう乎否々興論も亦誤謬なき判断者とあすとはできません興論は依りて聖人「ソクラテス」は終に毒殺せられました興論に依りて救世主「イエスキリスト」は終に十字架の痛苦を受けました、諸君は教師を以て真理の判断者としませうか先輩を以て我信仰の標準者と致しませうか或は有志家を以て或は官吏を以て或は君を以て或は親を以て眞偽の判断者或は其標準と致しませうか成る程彼等は仰ぐべく聞くべく共に謀るべきものには相違なけれども諸君よ彼等も亦人なることを忘るべからず其誤見多き人間の中なることを記憶せよ諸君等も亦彼等と全じ人な

真理を取り真理を踏で進むべし
一八
るとを思へ若しそれ徒らに彼等に心酔せば盲人相背て共に誤謬の淵に溺る、譬喩に漏れないものとなりませう

左れば何を以て諸君等は其起き又仆れ又立ち又貫かんとする真理其物を判知し其物を己れの物にせんと致しますか我輩今、諸君に告く諸君は各々諸君自らの帝王なり主人なり諸君は人に依らず己の足にて立ち自由自在其思ひ其信ずる所に行かば如く諸君等は其信仰其判断をして決して他人に依るとなく其自らの信仰自由の足にて起ち其自らの自主判断の歩み信せて動くべきあり併しながら自主自由は必らず責任に伴ふ如く諸君は自由の信仰を定め自主の判断をなす人となるに於ては先づ其心を空ふし其良心を磨き一毫も私心の爲めに破らるることなく卑屈の爲めに其見解を誤つことなき様勉むること實に大切でござります世には種々の説を唱へ是は真理なりと確信し或は主張する者の中にも自らを欺むき人を欺き一生を誤るものも多々あるなり何故ならば彼等は真理よりも先づ名譽功利を當てにして真理を手段とあさんとするが故に然目遂に其人をして真理ならぬものを真理と見せしめ己れが色眼鏡を用ゆるの久しきや遂に其眼

鏡を忘れ萬物をして實に其物なりと誤認して悟らざるに至るものです
此故に諸君等は真理の判断を誤らざる爲めに先づ其良心を確實にし如何に其身に不都合あるにもせよ損耗あるにもしる肉跡止堪へ難く思ふとあるにもせよ尙も是れは真理なりと認むるときには百事を抛ち身命を棄つるも尙之を取らんとすの決心を先づ其心に備ふべきなり斯くて其決心の備りたる上は前に申したる如く人の爲めに動かされず情實の爲めに左右せられざる獨立獨行自由の精神を保つこと誠に以て必要です左れば逆徒らに人に従ふ勿れと云ふにわらず此精神と彼の良心とを備へて後只管真理其物をのみ目掛けて行くべし進むべし若し夫れ乞食にても諸君に真理を教ふる時には取て己れの真理とすべし砂礫混々の流中にも金剛石なきにわらず其場所其人其物の何たり誰たるに拘らず諸君若し尙も真理と認むるときには之れを取るに猶豫すべからず無真理の物には其場所を問はず其時を問はず其相手の誰れたるに拘はらず大膽虎の如く猛なるべし其の代りに尙も真理なりと認る時は小兒の前、野郎の前にも尙ほ謙遜して虫の如く伏せざるべからず併しながら今諸君よ目を擧げて此世界を御覽なさい我輩の見る所

真理を取り真理を踏で進むべし

真理の外諸君を隷奴にするものなし

と大に異なるものあるを見出しませう夫れ世間には己れより上なるものと見るときには其事の正邪眞偽に拘はらず惟命唯々として是れ従ひ口を開くと能はず虫の如く振舞ふにも拘はらず其下あるものと見るときには一言く之を尤め之を論じ傲然忽ち虎の如き暴威を振ふもの往々あるではございせんか我々の生徒諸君よ諸君等は真理の友たり真理の味方より外なきといふべしとの覺悟を豫め今より備へ置くべし諸君若し茲に其心を置き其身を處さば眞偽を判断し正邪を區別する事敢て難きとはならず夫れ斯く猶ほ眞理を誤るとあらば是れ諸君等の力の及ばざるのみ諸君の誠實誠意に於て傷けらるゝ事あるとならば天下君を憐むとも亦君を惡むものはあらざるべし此故に只君の良心を盡し智識を盡して以て其眞理ありと信する眞理を取らば諸君に於て又悔むる所あらざるあり、眞理の標準は諸君の良心と其智識の外天下別にあるものにあらず諸君よ進み只眞理を目當てとして諸君の足にて進むべし宇宙、眞理の外諸君を隷奴にするものはあらざるなり

我は唯我行くべき真理の路を知る

むるものありとせんか乃ち之を取り之れに依て立ち之に依て動くの間に於て又非常なる決心と覺悟あらざるべからず彼のスコットランドの「ジョン・ノックス」を御覽なさいイタリヤの「サボナロー」を御覽なさい、セルマンの「ルーター」を御覽なさい彼等は孰れも天下無双の豪傑にして萬世に其名を轟し得べき人物なるにもせよ其豪傑たり其人物たりと世の嘖々稱道する所以のものは一に眞理を執て動かざりしが爲めではございせんか彼等は刀劍前へに閃らめき火刑後へに待つと雖ども自若として動かず我は唯我行くべき眞理の一路あるを知るのみ刀劍火刑我に於て何ぞ與からんとて群敵の中に立て其殺さるゝに至る迄尙ほ口を箝めず其説を主張し従容として社會に運動致しましたでござりせんか我輩等は彼等の傳を讀む毎に未だ曾て胸鼓ち氣塞がないことばかりありません夫れ世には如何に殘佞奸邪の徒多しと雖ども孰れも皆本良あらざるはなく惡を惡と知り善を善と知らざるものあることなければ假令一時は如何に妨害を構ゆるとあるにもせよ畢竟眞理に逆ぶて力なきものです左れば諸君よ眞理を取て進むべし眞理に逆ぶものは亡ひ眞理に従ふものは存す諸君の眞正の能力は此眞理の内にある乎將

眞理を取り眞理を踏で進むべし

た其外にある乎に依て消長する者あり今や我邦は變遷の時あり改革の時なり新舊混合
 眞偽錯雜、陷阱あり盲導者あり諸君宜しく心して幸に眞理を誤り後世の怨を引くと勿
 れ否願くば此眞理を取るの道を知り此眞理に動くの精神を養ひ虚偽を排除し偽善者を
 鞭撻し諸君の代即ち將來の日本をして眞理の人物の充満する眞理の國となさしめよ是
 れ一に諸君等の責任のある所にして本校が諸君に望む所の者も亦是れに外ありません

○膽を練る事

今朝は此頃來の講話を結ぶ積りです借て是迄の所にて智識を得、徳を備へ又良心を明
 かして眞理を判断すること及び既に眞理と認むる以上は執て動かず火が再ることも槍
 が降るとも其眞理を執て何處迄も進まなければならぬと云ふことをお話し申しまし
 たが尙ほ茲に眞正の人物となるには一の大切なる事が御座ります即ち膽力を練る事て
 す凡そ人は眞理を知ること能はざるより寧ろ眞理を知るも尙ほ之を行ふこと能はざる
 もの、多いものです即ち道德の勇氣に乏しきより爲すべきことを得なざる爲すべ
 からざることを卑屈して爲すことの多いものです

大膽なる至るを貫く

大膽なる至るを貫く

此故に諸君若し如何程の智識を備へ如何に眞理を明瞭し得るとも諸君若し此膽力と云
 ふものがなければ只目計り開けて物の色を斯と知り耳計り開いて物の音を斯と悟ると
 も手なく足なく歩むことも動くことも出来ない片輪の様なものて御ざりませう如何に
 學者となるとも道德家となるとも臆病者は實際の役には立ちません近く譬へて申しま
 すれば諸君の中公衆の前へに出でて己のが眞理と認むる思想を述ぶるに當り或は羞し
 く思ふたり怯氣を取つたり甚しきは「アル」く「ふる」へる様な事がありとしませうか夫
 れ諸君の何が故に羞何が故に怯れますか諸君は諸君の權利を以て諸君が眞理と思ふ思
 想を公衆に訴ふるものでは御座りませんか左らば何ぞ大膽至誠を貫て儼然と演壇に屹
 立することを致しませんか只演説の上のみならず凡て諸君は拜すべからざるものを拜し
 己のが權と自由を賣りて徒らに媚び諛ひ人の前へに巧言令色卑屈の腰を折ることあり
 と致させうか是れ眞正の膽力即ち道德の勇氣がないものです諸君も諸君は眞正の人
 物とならんが爲めに宜しく此膽力を練るべし磐石不動の心を養ふべし拜すべからざる
 もの、前には一寸も諸君の靈長の頭をして下げしむること勿れ進むべき道の前へには

會機のる練を力膽

猛獸側に哮り群り長蛇上に狙ひ窺ふとも其膽力をして一分も縮めしむることなく勇を
 鼓して進むべきです
 左れば迎此所謂膽力なるものは養はざれば大きくなると能はず練らざれば強くなるこ
 と難ければ諸君等は此膽力家とやらんが爲めに其修行をなさざるべからず而して其修
 行と云ふものは只空室に腕を扼して空元氣を張るの云ひにわらず事々物々に當り其時
 と其場合に應じて以て其膽力を練る事の機會を失はざる様平生心掛くるが肝腎です假
 令自ら膽力あるものと思ふて居ても眞逆の時には中々さう云ふ譯に行ぬものにて見苦
 しき舉動をすると往々あるものです夫故に其眞逆の其時が眞に膽力を練る機會です譬
 へば晝間は天下清明、怪物隱没するが故に諸君の心に想像して天下怪物あり我恐るゝ
 ものさしと構へて居ることが出来ませうか暗黒の夜となりて深林墓所を通るに至れ
 ば諸君の想像漸く其力を失ふて人生の弱き所を表はし初めませう其時忽焉として燐火
 而を掠りて飛ぶとありませうか怪鳴不意に足下に起ることありとしませうか或は又剽
 客の劍を掲げて四五間先きに立つを見受けることありとしませうか諸君等の晝間の勇

不意の驚惶

氣室内の元氣は忽ち其形を隠して狼狽する様になることばありますまいか諸君の中、
 平家の弱卒が水鳥の羽音を聞て源氏の犬軍が押し寄せたと思ひ泡を吹いて亡出したる
 ことを聞き笑止千萬なりと思はるゝ方もありませうが實際に臨では諸君も亦人に笑は
 るゝ事があるかも知れません
 左れば諸君は彼の不意の驚惶に出會ひ其時を茲予膽力の練り場所と定め怯氣の湧き來
 る事を抑へ靜かに座して自ら顧み我何ぞ臆病なるぞ我が前きの勇氣は何れに失せしぞ
 怪物來れ我以て我膽を練らん敵軍來れ我以て我勇を試さんと其時其場所に泰然として
 構へ決して一步も退くべからず斯くて諸君が毎々臆病に打勝ちて其膽を大にじつゝお
 る時は遂に大抵の事にはビク／＼せず眞に度胸の据たる人物とあることが出来ましや
 う私毎に浦山敷も亦驚くとは彼幾度も戰場を経たる武官が何處となく膽力が据り居て
 自然に人を壓する磁石力を持つとてす思ふに彼等迎も其初陣の時には少しはビク／＼
 したるべけれども其實際に膽を練る事の屢々なるや遂に彼の浦山敷位地に達したので
 御坐りましやう、又聞く眞劍の勝負の時は劍術に達したるものより寧ろ度胸の据りた

人るたへ備をドーフンマ

るものが多くは勝を取りますとぞ
 此故に今日諸君が智を磨き徳を修め眞理を判断し己れが爲すべき道を學ぶと申す所は
 決して竹刀稽古のみにて終る泰平時代の武士とある積りては御坐りませぬ必ず眞の
 社會の戦場に出て眞劍の勝負を試むる覺悟を以て學問をして居るのては御坐りませぬ
 か左れば此中或る諸君の故郷なる米澤の雲井龍雄と云ふ人が會て奥羽人士が甚だ膽力
 に乏しかりし事を慨嘆して風聲鶴唳肝膽墮と吟ぎましたる様の人士とあるとなく必ず
 や今より此膽力に心掛け諸君が是より一生の間旅路をなすの間に於て卑怯卑劣未練膽
 病の舉動あきやう我輩之を諸君に切望せざるを得ず
 そこで私は此演説の初めに智を説き其次に徳を説き而して今朝は膽力を説きましたたが
 之を心理學にて申しますれば恰も智情意の三つのものを説たのです左れば諸君等が此
 三つのものを修行すれば即ち全心を修行する事にて智徳膽の發達は即ち君自己を完全
 ならしむるのです、而して此三つのものも完全したるものは即ち眞正の人物にして所
 謂「マンフィード」を備へたる人で御座ります我輩は片輪の教育をなすを好まず又諸君

書生の目的

をして片輪の人間とらしむるを好まず即ち智徳兼備正を踏んで斷行するの人物と
 ならしめ以て將來の國家を諸君に預けたく存じます

○志望を遠大にし目的を高尙にすべき事

今朝は一步を轉して洪大なる問題即ち志の上に付て聊か論じたく思ひます扱扱は實際
 何んにも出來ざる愚蒙無學ある書生が只大法螺を吹立て、天下とか國家とか何んとか
 大層らしく騒ぎ廻るを好みません「パード」の萬國史も未だ終らず、父兄の厄介を
 離るれば忽ち方向に迷ふ様なる實業なき粗暴書生が安りに壯士とか何とか自稱して狂
 奔し終に一生を誤るを見て餘り感服の致しません併しながら凡そ書生たるものが其
 志望を遠大にし一生の目的を高尙にせざるべからざるに付ては熱心に主張せんと欲
 するもので御座ります

抑も諸君は諸君の一生の目的を如何ある邊に置いて居りませうか諸君が將來の志望は如
 何なるものですか諸君若し今諸君の目的と其志望とを私にお話し下さるならば私に今
 より諸君の將來を卜すると甚だ其容易あると思ひます何んとなれば人の運命は其志

志望を遠大にし目的を高尙にすべき事

昔時武士の氣節

の如何に依て定むるものであるからです私の先年私の故郷に歸りましたる處が我舊藩士族の者共日に益々疲弊に陥り誠に憐れむべき有様なるを見て轉々慨嘆に堪へなく感じました其の中尤も私をして嘆息せしめましたる事柄は其士族の子弟ある青年が汚下なる目的を有し針の穴の様なる志望を懷て居ることを覺りたることで御座ります、一昧士族なるものは昔時ならば死を鴻毛に比し國家の爲めに屍を馬革に裹むことを身の榮譽となしたる程の氣節を有し文を講じ武を演ずるも必竟する所る君の爲め國の爲めなる目的を外れず誠に武士と申せば其志望必ず衆民の上に出て衆民をして仰ぎ畏れしめたる程で御座りましたのに其子孫たる今日の少年は一般に如何なる志望を最上に置いて居りますかと申すに他方は知らず我郷里にての誠な慨かはじき次第とあつて居ります私試に其時少年十四五名を集めまして君達は如何なるものにならんと欲ふ歎其志は如何と尋ねし其一人答て予は英學先生にならんと欲すと云ふかと思へば其傍より否余は警部にならんと欲すと云ふものあり或は否予は小學教員否余は郡書記にならんと欲すと相争ふて其志を陳べましたが實に私は思はず涙を漏しました又其外可惜頼母數有

年若き老人

爲活潑の青年にして若し之を勵まし之を導くときには一廉天下に事を爲すべき人物あるは伯樂の赤きが爲めに空しく槽櫪の間に伏し千里の驥足を田舎の鹽車に従事せしめて終に驚馬にも及ばぬ生涯を渡りつゝあるを見まして彼等の爲め又國家の爲めに深く悲みを催ふしましたて御座ります
夫れ諸君よ諸君にして果して小學教員たるの目的を以て居りませうか諸君は決して其目的以上の人物たると能はざるべし何となれば其目的を達するより外の奮發をなさざるべければなり而して既に其目的を達し其人物となりませうか諸君の志望既遂けたり又他に望む所あるとなければ諸君の氣既に滿ち其心既に足り一生の進歩發達乃ち其時に終りませう乃ち諸君は既に青年にあらざり年若き老人となりたりと云ふも別に差支はありませう併しながら斯く申したれば迎決して小學先生を賤むにあらす只其一生の志望目的をして初より斯る點に止むべからずと云ふにあらすなり諸君試に有名ある哲學家の列傳を見よ其曾て小學教員たりもの多きを知るべし只其れ彼等の小學教員たりし所以の者は其曾て抱ける大志大望の旅店たるに外あらざりしのみ彼等は小學教員

機械的の人物

たりし然れども其志望目的は高尙の哲學者となり其名を天下萬世に轟かさんと欲するの點にありて其情赫々既に其胸中に燃へてありしことを見出しませう凡そ人自重自信の心なきものは到底碌々社會の砂礫たるより外の運命は得難きものにて其自重自信の大小志望の高下に依り其運命も亦伸縮消長するものです。左れば諸君よ余輩は諸君に望むに其志望を遠大にし其目的を高尙にすることを以てしなければなりません私近來大に感ずる所は今日一般書生の志望が卑劣にありしとて御座ります警へは私の臆測する所では今の書生の志望を叩けば其多くは斯様な分子が合んでは居りませんか曰く先づ何でも糊口に困らない爲めに學問を爲て置かねばならぬ、曰く早く月給取とならねばならぬ、曰く大學を卒業すれば如何に楽しくあるぞい、曰く何々、曰く其々と其學窓に彷徨する所の志望の種類千差萬別なるべしと雖ども必竟する所學問を商賣となし人足となし機械とあし内軀を樂ましむるを以て其目的とあさんとする傾きは追々増進して來るは居りませんか茲に至ては私今日の書生が遙か古昔の漢學書生に劣るとあるを發明致します、如何にも空論と申しながらも昔し漢學の塾に

治國平天下の志

ては其十歳以上に至れば則ち教ゆるに治國平天下と云ふ實に宏大無邊なる目的を以てするが故に其書生たるものも亦常に治國平天下の志を抱き自重自信の心、誠に大且重にして決して今日の書生の如く卑劣野鄙なる學問の目的を以て居りませんか、故に其空論も屢々實際に行はれて書生は常に天下國家の運動力を支配する最大の分子となりて居りたてはありませんか。且又其志を大にするに當り決して自暴自棄するとなく又假令如何程仰ぎ望む如き人物に出會とも決して其人に壓せらるゝとあき様あさゝる可からず「彼も人なり我も人なり」どの氣象を常に備へねばなりません警へば其兄に非凡ある人物あるときには其弟たるもの大抵身を終る迄兄を凌ぐと能はぬものです又親の非凡なるときには其子生涯親より優ると能はず常に親の尾に付て一生を送ることは世間通例の様に思ひますか之れはどふ云ふ譯でせうか思ふに其弟たり子たるものは餘り其父兄の非凡なるより逆も及ばぬ事と初めより自棄して掛るから則ち決して及ばぬのです若し夫れ富士山を見て餘り其高大なるに驚き未だ一步だも試みずして氣既に挫け魂既に奪はるゝ時には頂上

青は藍より出りて、藍は青より出り

迄は愚か、一丁だも登るとは出来ませぬ其れと同じ道理にして諸君、萬一私を見て其志を私の地位より上に登すことをせず彼の人の様になりもせばと思ふ人ありませうか其心既に私に吞れ其氣既に私に壓せられて居るものですか若し左様な覺悟では決して私に及ぶとは出来ませぬ夫れ青は藍より出で、藍より青とは私が諸君に望む所にして諸君若し眞に私にならんと欲せば其志を遙か私の頂上に置かなければなりません况てや私の如きものを標準として何等のことが出来ませうか私が諸君を薰陶する所の主眼は私の弟子を造るにからず私の師匠を造る積です西郷隆盛に吞れたる鹿兒島の人中よりは西郷隆盛に優るものゝ出る筈なく予曰くと畏れつゝ讀み、聖人我得て及ぶべからずと教へられたる支那の國には孔子より勝れたる人物の出づる筈はありませぬ左れば諸君等苟も今日奮發して歐米の文學迄をも修めんとする所の書生、日本將來の社會を組織すべき所の諸君等は其最大の目的を何の邊の處に置きませうか其立志の覺悟の如何で御座りませうか先づ諸君等は其志を立るに先ち諸君自らは如何なるものなる乎を知らざるべからず

人のためならぬ

夫れ諸君等は齊しく人なり人とは如何なるもので御座りますか人とは如何に其階級を異にし其蠻野の區別あるにも拘はらず其本來の天性を叩きときよは之に上下蠻野の差別あるものでは御座りませぬ彼の奴隷は人魂を有せずと考へたる哲學者の時代は最早過ぎ去りて今日は天賦平等の權理と自由と其資格を一般の人の上に允す所の誠に結構ある發明の時代になつて参りました左れば諸君能く思ひ玉へ此理一度諸君の心中に入る時は諸君は卑劣にならんと欲すとも能はぬものとなりませう譬へば茲に一人の乞食ありと致しませうか此乞食若し此結構なる悟道を知らず自から顧みて尙から身もめ我は乞食なり乞食の生來なりとの考を常に其心に懐く時には奮發の氣風は起る時なく一生乞食にて終るに相違御座いますまい然れども若し此乞食が段々己れが素圖を贏べ其元來の身分を顧みたる所て一朝其先祖は天子にして我は元來天子の子孫なり若し世が世にてあるならば萬乘の位に坐し天下を統御すべき資格を保つものなるこの次第が分明に知れるとに至りませうか此乞食の氣象は忽ち勃興して身に纏ふ所の襤褸は矢張以前の襤褸にして食を乞ふ所の椀は矢張以前の破椀たりとも其心は復決して以前の乞食

我人彼人也

に非ず我今假令乞食たりとも正しく天子の子孫なるを何ぞ何時迄も碌々として斯る賤境に墮落せんや。進取發達の氣象勃々として自ら禁ずると能はざる様に至りませう既に茲に至りませうか最早決して以前の乞食にては居りませうまい是全く此乞食が眞に己れの何物たるを悟り其價值を知りたるより初めて起つたるもので御座います若此乞食にして何時迄も此理を發明するとなきときは何時迄も乞食より上に出世するとはおらなかつたて御座りませう左れば諸君よ此理を悟て奮發すべし假令諸君は今日如何なる地位にあるにもせよ如何なる身分にあるにもせよ諸君には各々天より賦せられたる所の無窮發達の運命と無限進歩の靈魂とを備へられてあるものなり諸君は「カント」「トール」「カント」等の深き考へに驚きませう然れども諸君等も亦同く此考を持ち得べき天性を其身に備へて居るのです諸君は「ニヒュートン」「アレンキサンドル」「マクドナルド」等が小窓に坐して以て天涯萬里を測りたるを聞て其精密なる工未だ驚きませう然れども諸君等も亦其天賦の資格に於ては彼等と同じ程度は達し得べきもので御座りませうか諸君は「アレンキサンドル」「ナポレオン」と聞くなりば舌を巻いて怖れませう然れども彼等逆も人外の

無限發達の濶歩

ものでは御座りませう諸君も亦其無限無究の靈魂の發達より云へば「カント」「ニヒュートン」「アレンキサンドル」などよりまだ遙に進まなければならぬ運命を身に備へて居るものです假令今如何なる人物が顯れ出でましたとするとも其人の人たる無究の運命を極めたるものは御座りませう左れば諸君等逆も覺悟と奮發との次第に由りては何ぞ必ずしも彼等に及ばないと云ふ道理がありませうか諸君等が若し彼の乞食の如く卑屈して上を見ると天を望むが如く逆も登ること能はなば断念すれば則ち已まん然れども苟しくも諸君が諸君の人たること、其人たる運命を覺らば何んぞ其無窮進歩の道に向ふて無限發達の濶歩を試むるを致しませんか諸君自から卑しむ勿れ學者も人なり智識も人なり宰相も人なり國王も人なり而して諸君も亦其人の中にあり折角天子の子に生れ乍ら何んぞ乞食の眞似を致しまするか何ぞ乞食にて甘じませうか茲に又諸君等が今日大志を立てるに方りて大に勵みとなるもの、あることを忘るべからず夫れ昔しなれば我國は士農工商とて人民の階級劃然と定まり居たれば各々其生れたる階級に居て一生を渡らなければならぬ次第なる故に假令商工農にして非常なる大志

奮發せざらんぞ欲するも能ざる也

を懐くとも到底之を展すの場所を得ず階級の斷岸に立て空しく絶念するより外ありませう。士族に至りては前の三階級とは異りて随分志を展すとが出來たと致し、
 ても各々又其中に千差萬狀の區別ありて畢る所大志を展す場所を得るものは誠に僅々
 たるもので御座りました左れば身に覺へある力量を月に訴へて空しく不遇の嗟嘆を催
 すものもあり、吞舟の大魚小溝に産れ泥を吞んで徒らに殘念がる有様に陥るものもあ
 り又夜半歴史を閲して身の太平に生れたることを憾むる徒輩も御座りましたらう然れど
 も諸君よ諸君は實に幸なる時に生れたる人あり、今や關門は破れ階級は壞れ藩閥は倒
 れ斷岸は埋もれたれば諸君は亦我身の力なきより外別に怨むるものはなき様になつて
 參りました今は諸君の力量次第で總理大臣にもあるべく東洋の楨たる人物にもなるべ
 く歐米各國否天下萬國を震動せしむべき豪傑とあつて運動すべき場所は諸君の前に廣
 く開けて居るものです夫れを思ひ彼を思へば諸君等は奮發せずして居りませうか志望
 を小縮せしめんと欲するとも誠に以て出來ませぬ
 然れども我が冒頭にも申したる通り實業を止め修業を廢し徒らに空しき大志を懐て騒

自 身 を 知 れ

き廻れよと申すには非ず彼のクリンヤの天文學者が遠大なる空のみを眺めて終に溝の
 中に失墜たる様な笑草となれよと申すては御座りませぬ只我輩が諸君等に勸むる所は
 決して自暴自棄自卑自屈する（はまりこみ）ことなく永遠無究進歩發達の運命を保つ我身を忘れず我勉
 強次第我力量次第に依りては何處迄も登るとを得べく何處迄も達するとの出來る者た
 るとを記臆して良志や今其身は乞食に居るとするも賤業に居るとするも卑き地位に立
 ち居るとするも我も人なり何ぞ彼に及ばざるとのあるべきぞと登れば登る程行けば行
 く程尙もくと奮發して小學校のみか一國のみか東洋のみか世界中のみか否志望を永
 遠無究に馳せて人の人たる運命を限りなく盡さんと欲するの志がなくてはありませぬ
 此志なきものは所謂人にして人にわらず否人にして人の價值を知らざるもの或は之を
 棄てたるものと申しても決して差支はありませぬ夫れ諸君は遠大無究の志望を持つ
 べき人として生れ來るものなり諸君乞ふ諸君其れ自身を知れ

而して此志を懐きつゝ行く所の道路に於ては山もあるべく川もあるべく種々様々の難
 所險境もあるべければ躓き倒るゝもの中途に引戻すもの溝壑に轉ずるもの飢渴に究す

るものも必ず多くありませうが扱て諸君等は何かにして其難所を安全に通過致しませうか私は次の講話に於て其案内を致す積りて御座ります

○學生の旅路に於て其艱難に打勝つべき事(第一學資の事)

扱て私今朝は生徒諸君が大志大望を抱きつゝ攀ぢ登る一生の山路の途中に於て諸君等が屢々如何なる大敵に襲はるゝ乎如何なる嶮阻に出向ふ乎を説き而して如何にして之に打勝ち之を過ぎ越すべき乎を述べんと存じます

諸君試みに今東京に行て御覽下さい東京には數万の書生が群集して居ります而して其書生等は皆恐らくは大志大望を抱くものにて何れも其初めて郷里を出るや「業者成らざんば死すとも歸らず骨を埋む豈惟だ墳墓の地のみならんや」と高吟しつゝ大奮發の歩を踏み占めて東上したる者には相違御座りますまい然れども彼等の中果して幾人が其志を遂げ錦衣故郷に歸るの榮を得るに至りませうか恐らくは其百分の一だもありませんまい其は又何故乎と尋ねまするに彼等は只志を立てたる儘にて其志を達する道中に於て襲い來る所の大敵を防ぎ導き行く所の嶮路を避くる手段を知らず或は精神勇氣を

負 筈 出 郷 關 の 時

妄 想 烟 煙

其志と共に備へ置ないからで御座ります

左らば其大敵、嶮路とは如何なるもので御座りませうか先づ第一學資に究するに云ふ此大敵此危嶮です例へば東京環にて先づ百人の書生を有する學校ありとせん这其中過半は早晚必ず何乎の故障よりて廢學する者と見做しても別に不當な推察ではありませまい而して其何乎の故障と云ふ中にも學資に究するに云ふ故障が其多分を占めて居ると見ましても是又別に事實に相違したるものではありませまい夫彼等は只其志の勃興のみを當てにして將來の學資如何を顧みず無暗に「行ケバト」ナリ「ト」位のみ考にて取敢へず筈を篋ふて出掛けるより資金直に竭き其臂て只漠然ト「カ」を思ふたる想像は實際ト「」にもなり兼ねて學僕の口もなき行て依頼する人もなき「進退維谷」遂に止むを得ず廢學するのです扱て諸君よ此止むを得ざるを云ふ一言を今深く注意せざるべからず此止むを得ざるを云ふ廢學者の場合果して眞に止むを得ざるもので御座りませうか否々彼の廢學者には實よ止むを得ざるもので御座りませうか、茲が實に危急存亡の秋彼の所謂立志の旅路の大敵と勝敗を決する一生涯浮沈の戦るゝ所で御座りませうか此

し家時の谷維退進のに傑俊

止むを得ざる時に於て乃ち止を得ざる者は實に常人の爲す所平々凡々たる書生の做ふ所て御座ります彼の古今俊傑の士と常人と異なる所以は即ち一に此點にあつて存するものにて其區別は此場合に臨み此時に當て分るものです彼の「ナポレオン」が拔群の秘訣は即ち亦茲に在るものにて彼が「能はずと云ふ言葉は愚人の辭書より外あるものにあらず」と申したることは以て大に悟るべきです彼の凡々の書生にこそ學資の不足も止むを得ざるなれ苟も眞に志あるもの俊傑の輩には是決して止むを得ざるものにあらざるなり諸君今試に古今名士の列傳を調べて御覽なさい其過半は皆何れも學資に究し頼る人なく助くる人なく所謂凡人ならば進退維谷りたる者て御座りましたが彼等は決して進退維谷りませなんだ彼等の至誠と精神とは巖をも碎き山をも壞もて其谷りたる低地をもて平面上に突出致させました先彼の此間も申しましたる「サルタン・ル・タル」を御覽なさい彼は近世文明史の旭日よして其光線は遙か今日迄をも照す如き古今無双の人物では御座りますれども其幼少の時を尋ねれば則ち貧家の一子にして其究する時に方てや殆んど乞食にまで落ち下りたるもので御座ります彼は學問に志し早く既に大

行苦の哲先

志を抱て居りましたけれども其貧窮なる故を以て更に學資のなき所より大抵の人からは所謂止を得ざる連中となるに相違なければ彼は決して失望せず傳ふる所によれば彼は曾て早朝雪を踏で入の門に立ち臥を誦ふて以て憐惠を乞ひ其僅か得たる所の金錢を以て學資に當て或は小學或は夜學に通ひしと云ふ之を以て是を觀れば諸君の精神如何によりて止むを得ざるものも又止むを得ざるに非ざるものとなり彼の「能はず」とて失望落膽の山谷に窮し切り遂に墓なく倒るゝものは即ち其人にして其運命あるものと悟るより外ありませんまい、彼の「ガートヒルド」は河舟を牽て登る小僧ともなりましたが遂には北米合衆國の大統領となつたてはありませぬか彼の英國クロストルの旅亭に傳はれて注酒人の小价なりし「ホイットヒールド」は後日英米を震動したる非凡の説教家とあつたては御座りませぬか博士「ニーマン」は書店の丁稚とあり其書物を運ぶ途中に力究して「ウエストミンスター」の會堂の側に倒れ「一生斯くてあらんには我が人と生れし甲斐を如何にせん」と大聲を放つて泣たど云ふ面白き話も御座ります實に諸君の事を成すとなさいるといひ只其精神にあり學資の多少、君よ於て何かあらん

○學生の旅路に於て其艱難に打勝つべき事(第二體育の事)

非常なる精神を以て學資不足の大敵を征服したる後諸君の出會ふ所の敵は何て御座りませうか彼の續々學生を落す所の危險の谷は如何なるもので御座りませうか曰く第二に來る所のものは病氣です。よし夫諸君が非常なる精神を以て折角彼の第一の大敵を踏付け得ると致しまするも此第二の敵に倒さるゝときには以前の勝利は何の役に立ちません御覽なさい其精神は徹夜を厭はず其忍耐は寒中一枚の單衣を温かしのなして以て能く勉強するものなりと雖も其肉體は吹けば飛ぶ様な瘦せ衰へ其顔は青菜の如く色青ざめ其喉は肺病の咳を以て鳴るもの或は腦病に捕はれ體々として言はず己れ勉強を志すとも記憶力は既に消滅して其精神は朽木の如く腐れ果つるもの其他何病と云ひ何疾と云ふて廢學するもの實に學生の中に多いては御座りませんか、諸君よ諸君若し所謂病氣となるときは則ち虫喰人間となるてす如何に諸君が天空に聳へんと欲しても能はざるべく大風に儼らんと欲するとも決して出來ざる憐れ憂さき失望の外別に運命のなきものとなるてす其大敵實に輕ずべきものでは御座りません

間 人 喰 蟲

會 動 運 の 生 學 米 英

彼の學資の如きものは精神一ツによりて如何様にもなるべきもので御座りますれども獨り病氣に至りては後傑、精神の士と雖も決して如何とも致すとの出來ざるものです此點に於ては實に第二の敵程諸君に取りて懼しきものは御座りません、然らば諸君如何にして大敵を防ぎませうか曰く其未だ來らざる前に方りて之を防がずんばあるべからず而して其之を未然に防く方法手段は何て御座りませうか運動是あり體育是なり運動は病氣を根絶しにするものあり

夫れ我校は實に此點又は非常に注意せんと欲するものです我校は幽靈の人物を造るのではなく心身共に發達する即ち此娑婆世界の人物に造るので御座ります彼の歐米諸國の書生を御覽なさい實は活潑勇壯にして其運動の如きは人をして驚かしむる程のものです現に米國のエール、プリンストン二大學生の運動會或は英國のケンブリッジ及びオクスフォード二大學生の競争運動の如きに至ては英米國中の人氣を動かす争ふて其勝敗の新聞を見るを待つ程で御座ります其他文明各國は何れも其運動は非常なる者とか傳へ聞きます近來我邦にても大に茲に注目する所ありて既に大學生の運動會ある者

勉強は時の強勉し必ず運動の時の運動し必ず

も屢々あり又此節は所々にて體育の事を喋々申し出しましたは誠に喜ぶべきこと存じます夫れ此運動たるや啻に病氣を未然に防ぐのみならず又能く學生の精神を活潑にし智育上にも非常の關係を有するもので御坐りますれば諸君等は是非とも其運動の事を等閑にしてなりませんとは云へ勉學を惰りて迄運動に従事せよと云ふにはならず勉強の時には則ち一生懸命其勉強に従事すべし去る代りに是れより運動と申す其時には亦一生懸命に其運動に従事すべし彼の高下駄を穿ち手を袖にしブラ／＼として何もせず只傍看して紳士氣取る書生の如きは我校の最も責めんと欲する所のものです啻に運動の時間にてのみならず常に此運動の精神を保ち居て假令歩行の時にてはもブラ／＼ノ／＼隠居嗅き風躰をさし壯年らしくもあらざるとは亦我學生に取らざる所て御座ります左れば時々の体操運動は固よりのと我校にて屢々催す所の土曜日午後の野外運動會の如きに於ても成る可く諸君の奮來せんとを切に望む所あり

夫れ學資不足にて止を得ざると云ふものは真に止むを得ざるものにあらずと雖ども特り病氣に至りては精神も膽力も智識も志望も俊傑も豪傑も亦如何ともすると能はず即

不知不識谷底に落ち

ち真に止むを得ざるものとなりませすれば諸君は諸君の同生が此大敵に打仆さるゝもの多きを見て自から顧み自から恐れ宜しく此運動なる武具を装ひ以て諸君の旅路をなすべきです

○學生の旅路に於て其艱難に打勝つべき事(第三怠惰の事)

第三に來る所の大敵は不勉強、怠惰です是は一番卑怯なる敵なりと雖ども其色々の容貌を装ひ來りて甘く諸君を騙し込み歩つゝ導き遂に諸君をして知らず識らず登るとの出來ない谷底に引落とすに於ては實に妙を得たるのです此點に於ては前の二敵よりも尙ほ怖るべきものなりと云ふても宜しう御座りませう

扱只今斯うして見渡す所によれば諸君等は決して目下彼の學資不足の大敵に襲はれて居るのでは無く又病魔に襲はれて居るものとは見へませぬ彼の二敵は直接今日迫り來りたるものではなく之を妨ぐも亦未然にあるべしと雖ども獨り此怠惰の敵に至りては諸君只今より其戰を初めざるべからず、然らば諸君は何を以て此大敵を斃しませうかと申しまするに先第一は我輩が此間より話し來りたる事柄を顧み智識の動物とな

らざるべからず國の爲め地方の爲め盡さるべからず折角人と生れたる其運命を空しくなすべからず杯との事を能々顧み自ら奮て以て之を最良の武具と致さねばなりませんが尙茲に直接に諸君等に武器を興ふべき一の事物が御座りませぬ即ち諸君等を愛し諸君等に學資を興へ諸君等に望を置く所の父母兄弟親族等の上を思ふこと即是あり夫諸君等は時として惰心を起し或は浮か／＼として居るとあるも諸君等の父母骨肉は諸君等を思ふことに於ては決して一夜も忘れぬものです其辛苦して出すと出さぬに拘らず尙も學資を備て修業せしむる以上は何卒一廉の人となり親の面目を起し家の名譽を揚げ親類に迄榮われかし況してや若し國家の爲め後世の爲めに於る程の人物となるならば如何に樂しく喜ばしくあらうぞへと朝夕指を屈して其成業の日を待たぬ事逆ては御座りませぬ然るに之れに反して諸君等が若し浮か／＼として學日を送り折角の思金を浪費し學校は欠席勝ちにあし只身軀の成長するのみにして其學業更に上進せず終に失敗の底に沈て空しく家に歸るとともありませうか父母の悲みは夫れ如何が御座りませうぞ表立て歩れぬ程面目を失ひ親類迄の顔汚しとなり我身目からは一生

父兄を思ふ

那翁の

臍を噛んで暮さねばならぬ淺間敷有様とならなければならぬ譯では御座りませぬか此を思ふても彼れを思ふても諸君等は尙ほ奮發の心が起きませぬか否尙も神經あるものなれば是程の事分らないとは一人も天下に御座りませぬ
然れども之を知らざる乎の如く學生が往々此大敵に斃さるゝとあるは如何なる譯で御座りませうか私は諸君の中に毎朝二三里の雪を踏て來校する所の人あるを見て實に喜ひに堪へません然れども此大敵たるものは決して其精神の熾なる時に來るものではない少しく倦且疲れんとする其機に乗じ忽ち大擧して來るものなれば諸君等は決して之に油斷せず持重の覺悟あるべきです
終りに臨んで私は諸君の勵みの爲めに彼の「ナポレオン」の事を話して此講話を止めたいと思ひます「ナポレオン」曾て佛國の命に依りオーキソンを守る一小士官で居りました時に或る下宿屋の小部屋に居て一向人と交際をなさせぬ故人々彼を偏人なりと笑ひ其不恰好の風を見て不風のものよと指し嘲り居りました然るに其後佛國の帝王に迄經上りて後ち大軍に擁護せられて再び此同じオーキソンに參り彼の下宿屋の門を通り

天を突て上るべし

し時戯れに其家の老婦を呼び「曾て汝の家に少年の一士官「ボナパート」なるもの下宿せしとあるや否や」と問ひけるに老婦笑ふて「ア、アノ固陋にして無風雅なる少年士官で御座りますか彼の人は何時も彼の小室に閉籠り只々讀書のみを志し偶々出て来るも人と言葉を交へたるとが御座りませんだよ」とツイ何氣なく答へたれば「ボナパート」大に笑ふて「ア、我前きに空談雜語空しく光陰を送りたらんには決して今日あるを得ざりしならん我は即ち其「ボナパート」なりと答れば老婦膽を潰して言ふと能はざりしと云々のことを或る書物にて見ましたが此一話以て諸君の怠惰病を防ぐに足るものと存じます夫れ「ボナパート」が塾居したる偏屈風を決して學ぶべきものにあらざると雖ども小室に坐して自ら勵み超然として俗人に聳へ荷も雜談空語遊惰怠漫以て光陰を空費せず業既に大志を懐き他日天を突くべきピラミッドの基礎を此時より練り上げ積み重ねつゝありし事の原因より後日老婦を驚かしたる結果までを深く、自から顧み以て己のが精神を鼓舞するの資料としては實に諸君の爲めに非常なる勢力あるもので御座りませう

明治廿一年七月廿七日印刷
同 年七月三十日出版

編輯兼發行人 東京府平民
江藤義資
東京京橋區卅間堀二丁目一番地

印刷者 島 連太郎
東京京橋區西紺屋町
廿六番地寄留

印刷所 秀 英 舍
東京京橋區西紺屋町
廿七六番地

日本東部米國聖教書類會社代理店
横濱四十二番米國聖書會社支店

江藤書店
京橋區三十間堀二丁目一番地

發賣所

大阪博勞町四丁目

同 土佐堀三丁目

同 東京神田錦町一丁目

同 東京銀坐三丁目

同 京橋區南金六町

江藤清助

福音社

十文字屋

同 神谷齋

25
/
94

神學書類目錄

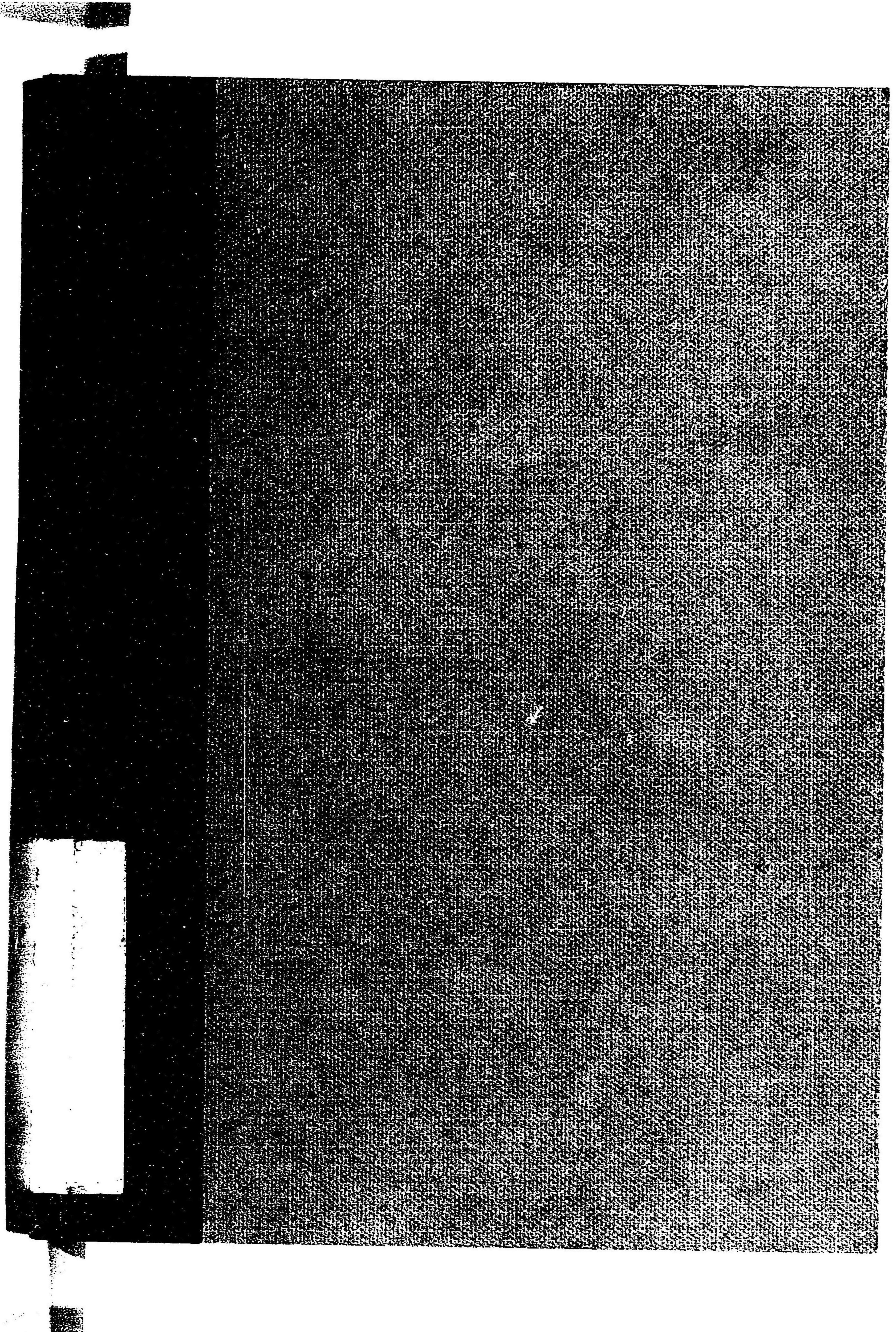
同人著 神學略說 再版四百五十三ページ 定價 金八十錢
 救拯學 再版附四百十五ページ 定價 金八十錢
 新約聖書神學 定價 金四十錢
 組織神學緒言 定價 金四十錢
 有神論 定價 金三十錢 (日本東部米國聖教書類會社委員)
 神性論 定價 金四十錢 (日本東部米國聖教書類會社委員)
 神ノ定旨 定價 金十二錢
 天地創造論 定價 金四十錢
 人性論 定價 金四十錢
 教會政治 定價 金廿五錢
 使徒行傳註解 第一卷 近刻
 福音史 再版附圖六百一ページ 定價 金壹圓廿錢 (日本東部米國聖教書類會社委員)
 基督神子論 定價 金四十錢 (日本東部米國聖教書類會社委員)

同人著

神學略說 再版四百五十三ページ 定價 金八十錢
 說教學大意 定價 金四十錢 (日本東部米國聖教書類會社委員)
 道德之大本 定價 金十五錢 (日本東部米國聖教書類會社委員)
 組織神學 定價 金四十錢 (日本東部米國聖教書類會社委員)
 聖經歷史指南 定價 金四十錢 (日本東部米國聖教書類會社委員)
 教會歷史 全二冊 定價 金四十錢
 基督教禮拜式 定價 金四十錢
 耶穌教會及禮典 定價 金四十錢
 初學問答 定價 金三十錢
 聖教信徒問答 定價 金九錢
 耶穌教略問答 定價 金三錢
 ウ井ストミニス トル信仰ノ簡條 定價 金十錢

K-7A

大日本教育會圖書			
一	二	三	四
冊	五	架	函
七	號		



特50

141

学生之錦囊

国立国会図書館

049120-000-2

特50-141

学生の錦囊

森本 介石/述

M21

BEK-0016

